

盤
基
会
社
サイ
クル
フ
サイ
クル
サイ
クル

シニアの知見で

SNPO法人 11月に設立シンポ

シニアエンジニアの豊富な経験と知識を活用し社会基盤の適切な運営、維持管理を行うことを目的とする「特定非営利活動法人・社会基盤エンジニアリングマネジメント研究会（略称SNPIM）」は11月5日、東京・虎ノ門のE.P.虎ノ門ビジネスセンターで設立記念シンポジウムを開催する。同NPO法人顧問の松尾総科学技術交流財団理事長兼名古屋都市センター理事長による基調講演、元NHK解説主幹の齋藤宏保中部大学教授による関連講演のほか、「社会基盤整備に関わるコンプライアンスの視点」と題しパネルディスカッションを行う。

NPO法人SNPIMは今年3月27日、設立総会を開催。理事長に岡正樹立命館大学大学院客員教授（元熊谷組執行役員技術研究所所長）、副理事長に現日本コンクリート工学協会会長で次期土木学会会長の阪田憲次岡山大学名誉教授、理事兼事務局長に森邦夫森技術事務所代表が就任した。

定款第3条に「国内外の中央政府・地方自治体・企業・コミュニティ・市民等に対し、シニアエンジニアの豊富な経験と知識を活用した社会基盤

エンジニアリングマネジメントに関する調査、研究開発、政策提言および技術・法務・経営サポート活動事業等を行い、社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする」と掲げ、その目的を達成するために諸事業を推進する。

具体的には理事会の下に運営委員会を組織し、さらに技術、コンプライアンス、マネジメント、コミュニケーション、国際協力から委員会を設けた。技術委員会は理事長（東洋大学教授）が委員長を務め、①社会基

盤の維持管理のための調査、設計、施工管理技術等についての調査研究②社会基盤の調査、設計、施工管理技術等の評価、法務対策のための技術的問題調査、コンサルティングなどに取り組む。コンプライアンス委員会委員長は阪田副理事長が兼務する。①社会基盤マネジメントにおけるコンプライアンス推進についての調査研究②社会基盤に関する仲裁、係争、訴訟および補償等の法務対策のための調査、コンサルティングなどにあた

る。有岡理事長が委員長を務めるマネジメント委員会は①社会基盤エンジニアリングマネジメントシステム構築に関する調査研究②持続可能な社会基盤のエンジニアリングマネジメントシステムの調査研究を進める。同じく有岡理事長は国際協力委員会委員長を務める。①日本の社会基盤構築の経験を生かした海外支援活動②日本国内での海外資金、人材、技術等の導入、流動化支援活動③海外での大学・学会・企業等の技術者との連携による情報交換および共

企画・人事・技術・補修

日本道路協会は国内における道路橋の維持・補強の事例をまとめた「道路橋補修・補強事例集（2009年版）」を11月に販売する予定だ。目次は、第1部道路橋の維持管理第1章総論第2章構造別の留意事項、第2部道路橋の補修・補強事例第1章鋼構造第2章コンクリート床版第3章コンクリート橋第4章下部構造第5章支保・伸縮装置・付属物等となっている。

同書は、維持管理に携わっている技術者や、現場の維持管理に携わっている技術者を対象にしたもの。既設道路橋の維持管理を円滑に行えるよう、基本的な事項に加え、調査・

研究をもとに行った実際の補修・補強の事例を36件掲載している。巻末には、07年版（32事例）のCD-ROMも添付されており、「損傷状況や損傷原因、補修・補強方針、留意点などの基本的な考え方を、現場の維持管理において参考にしてほしい」としている。

道路橋補修事例集

11月に販売、36件掲載

同研究を行う。コミュニケーション委員会は田中雄作理事（アイ・エヌ・エー事業本部技術長）が委員長に就任。①シニアエンジニアの経験・技術・人脉等のデータベース化②プレゼンテーション力の向上③発注者および市民への技術・法律問題に関する講演会の開催、論文発表、出版活動、大学等からの

インタビュー受け入れ④関連NPO法人とのネットワーク構築に取り組む。11月のシンポジウムでは松尾顧問が「環境寄与型社会資本」形成への「きらりと光る」リーダーシップを」と題し講演を行う。齋藤教授は「公共事業とコンプライアンス」を講演。パネルディスカッションは阪田副理事長の司会で、齋藤

教授のほか、太田信介国農村振興技術連携委員長、前田博理事（西村あさひ法律事務所パートナー弁護士）、海藤勝理事（英国仲裁人、ガイド・アンド・アシエツ代表取締役）がパネラーを務める。シンポジウム参加費は3000円で、問い合わせは同NPO法人事務局（cor.works@sil.co.jp）まで。